

関西現代音楽交流協会 (KMMA)

第 41 回現代音楽作品の夕べ

2011 年 6 月 5 日 (日) 16:00 開演 (15:30 開場) トントレフ・ヒコ

主催：関西現代音楽交流協会

後援：大阪音楽大学

大阪音楽大学同窓会《幸楽会》

(社) 日本作曲家協議会

日本現代音楽協会

協力：トントレフ・ヒコ

ご挨拶

本日はお忙しい中“第 41 回現代音楽作品の夕べ”にお運び頂きましてありがとうございます。関西現代音楽交流協会は 1986 年に設立され、これまで毎年 2 回春・秋に演奏会を開催して参りました。これまでの 25 年間の活動は必ずしも常に順調であったというわけではありません。途中数年間やむなく演奏会を開催できない時期もありました。しかし 6 年前に組織を大幅に改編し、演奏会運営に掛かる負担を軽減したことにより、その後は活発な演奏会を開催し続けることができました。また近年は若い入会者が増えたことにより、会員数は 6 年前の倍近くの 64 名 (2011 年 5 月 7 日現在) となっております。

今回の演奏会には 4 名の作曲会員からの作品出展と 4 名の演奏会員からの演奏出展がありました。いずれの作品・演奏もそれぞれ独自の音楽的世界を表現し、変化に富み充実した内容を持つことを目指しております。一回の演奏会にしては長時間すぎることが多少気がかりですが、お楽しみ頂きましたならば誠に幸いに存じます。

当協会では創作・演奏活動が今後益々充実した実り多いものになるために、会員一同それぞれの立場でより一層の努力をする所存でございます。これからも皆様方のご支援とご協力の程をよろしくお願い致します。

最後になりましたが、本日の演奏会にご来場頂きました皆様方の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈りしております。

関西現代音楽交流協会委員長
大澤弘之

演奏会終了後、小レセプションがございます。

プログラム

内藤 正彦 作曲 (作曲家会員 出品)

ソナチネ

ピアノ：吉野正江

今井 飛鳥 作曲 (作曲家会員 出品)

薔のルチア

ピアノ：今井飛鳥 ヴァイオリン：小澤沙緒里 チェロ：大西泰徳

デュティユー 作曲

ピアノソナタより 第3楽章 「コラールと変奏」

ピアノ：中田百合子 (演奏家会員 演奏参加)

朴 守賢 作曲 (作曲家会員 出品)

石積みの歌

巴烏：朴守賢 ピアノ：竹内愛未

北川 文雄 作曲 野呂昶 (のろさかん) 詩

「海中水族館」より シラウオ・マトダイ・イサキ

大澤 弘之 作曲 野呂昶 (のろさかん) 詩

祈りのかたち・あのひ・ときめくレモン

ソプラノ：片山賀子 ピアノ：石川七津子

=休憩=

吉松 隆 作曲

デジタルバード組曲

フルート：大升良美 ピアノ：中田百合子 (演奏家会員 演奏参加)

カプースチン 作曲

「10のバガテル」より 1番、4番、5番、6番、10番

ピアノ：夏目有香 (演奏家会員 演奏参加)

近藤 浩平 作曲 (作曲家会員 出品)

連弾の為の組曲「島」作品68

ピアノ連弾；多久潤子、土井緑

曲目解説 / プロフィール

作曲：内藤 正彦 NAITO Masahiko (作曲家会員 出品)

ソナチネ

この曲は、二つの異なる旋法を組み合わせた時に生ずる何かを追求することを目的に作曲されました。

序奏無しに現れる第1主題では、Eを主音とするフリギア旋法と、Aを主音とするドーリア旋法が組み合わされています。その結果、Eのフリギア旋法に含まれるFの音と、Aのドーリア旋法に含まれるF#の音が短い間隔で交錯し、単一の旋法のみによる旋律には感じられない神秘的な雰囲気が漂うかのようです。

また、バスの進行に隠された半音階下降は、展開部で拡大されて表現される伏線ともなっています。舞曲風の第2主題に続いて展開部に入ると、第2主題の旋律のリズムから導かれた主題と、第1主題の低音に示された半音階下降の進行が組み合わせられ、大きく展開されていきます。

お聴きになれる方は、この曲にどのようなご感想をもたれるのでしょうか。ご感想を聞かせて頂ければ幸いです。

<作曲：内藤正彦（ないとう まさひこ）>

大阪音楽大学短期大学部専攻科作曲専攻卒業。

作曲を田中邦彦、景山伸夫、藤島昌壽氏に師事。

平成二十二年度関西現代音楽交流協会作曲賞受賞。

関西現代音楽交流協会会員。

<ピアノ：吉野正江（よしの まさえ）>

大阪教育大学卒業。同大学院修了。コンセール・ヴィヴァン新人オーディションに合格。第17回京都芸術祭デビューコンサートに出演。デュオリサイタル、はなまるコンサート

（シャンソン喫茶ガットネロにて毎月1回）等に出演。合唱伴奏、バレエピアニスト、絵画や染織作品とのコラボレーション、シャンソンやJ-POPの伴奏、近年は、映画・ミュージカルの音楽担当など幅広く活動している。ピアノと作曲を大藪真紀子、故・田渕英治、ピアノを樋上由紀、小武内京子、志賀美津夫、田中紘二、武田牧子・ヘルムス、田渕千代子の各氏に師事。

作曲：今井 飛鳥 IMAI Asuka (作曲家会員 出品)

蕾のルチア

「ひとつの同一のイメージをそっくりそのまま回帰させながら、それでもなおそのイメージから新たな価値を引き出すにはどうしたらいいのか。」

ある映画監督から影響を受けた。彼の映画ではひとつの作品の中で同一のシーンや同一のアクションが回帰するということが頻繁に起こるのだが、そこには常に『1+1=3』になるような、更には『1=2』になるような、イメージの飛躍が伴われている。

そこで私は、ひとつのシーンを複数のカメラで撮影するように、ひとりの役者が複数の役を演じるように、ひとつのモチーフを徹底的に使用してひとつの曲を書くことを試みた。

「ひとつのモチーフをひたすら繰り返しながら (つまり再利用しながら)、それでもなおそのモチーフから新たな音を聴くにはどうしたらいいのか。」

<作曲：今井 飛鳥 (いまい あすか) >

1984 年、京都府◆生まれ。大阪音楽大学音楽学部作曲学科作曲専攻卒業。卒業時、大阪音楽大学優秀賞受賞。同大学大学院音楽研究科作曲専攻修士課程修了。在学中は作曲を乾堯、久保洋子、近藤圭の各氏に師事。ピアノを竹中啓子氏に師事。いまは鈴木治行氏のもとで研鑽を積んでいる。

<ヴァイオリン：小澤 沙緒里 (こざわ さおり) >

2007 年、相愛大学音楽学部音楽学科ヴァイオリン専攻卒業。2010 年、大阪音楽大学大学院音楽研究科器楽専攻修士課程修了。

2006 年、京都国際フェスティバルにオーケストラで参加、出演。ポーランド国立ショパンアカデミーマスタークラス受講にてデュプロマ取得、修了演奏会出演。

2008～2010 年、豊岡室内楽講習会、ミュージックキャンプ in 和歌山、PhoenixOSAQA 弦楽四重奏公開マスタークラス等の室内楽講習会を受講、修了コンサートに出演し室内楽を学ぶ。2010 年、第 19 回自泉フレッシュコンサートに出演。現在大阪音楽大学演奏員。これまで西川修助、宗倫匡、久合田緑各氏に師事。

<チェロ：大西 泰徳 (おおにし やすのり) >

京都市立芸術大学音楽学部卒業。

Ensemble-Akademie Freiburg 2006 に参加し ensemble recherche に室内楽を師事。

関西を中心にフリーの奏者としてソロ、室内楽、オーケストラで活動。

また clumusica<クラムジカ>や JCMR KYOTO などの現代音楽演奏団体と共に現代音楽の演奏にも積極的に取り組んでおり新作初演も数多い。

これまでに岩谷雄太郎、上村昇、Tamas Varga の各氏に師事。

現在、大阪音楽大学演奏員、神戸女学院大学オーケストラ客員。

作曲：デュティユー Henri Dutilleux

ピアノソナタより 第3楽章 「コラールと変奏」

近現代フランスを代表する作曲家 アンリ・デュティユーは、フランス西部の街アンジェに生まれました。曾祖父は高名な画家で、ドラクロワの友人だったそうです。まだドビュッシーが存命だった1916年に生まれた彼は、調性原理を逸脱することなく、印象主義をはじめとする近代音楽の手法と十二音階や無調とを巧みに織り交ぜた作風を得意としています。このピアノソナタは、1947年（デュティユー31歳の頃）の作品。

戦争の傷跡から立ち上がり、未来へと一歩ずつ踏み出していた彼は30歳の節目を迎え、パリ音楽院で共に学んだ女流ピアニスト ジュヌヴィエーヴ・ジョワと晴れて結婚しました。そして、学生時代から意欲的に作品を発表し続けていた彼が「作品番号1」として自ら意識して渾身のピアノソナタを書き上げ、新妻のジョワに献呈したのです。ジョワはこの作品を大切に弾いて、近現代フランス音楽史上有数のピアノ作品という声価を高めました。

古典ソナタ形式と前衛様式が、デュティユーの傑出した和声感覚の世界で見事に融合され、夢のような光に溢れた幸せな空間を作り上げています。

本日演奏します第3楽章は、主題としてコラールが提示された後、切れ目なく4つの変奏曲が続き、主題が時に声部間を縫うようにリズムや形を変えては現れ、最終的には輝かしいコラールで締めくくられます。

このソナタは、フランス人が作曲した最も有名な「ピアノソナタ」かもしれません。矢代秋雄、三善晃、武満徹たち日本の作曲家にも大きな影響を与えたこの作品は、今日ではデュティユーの代表作として親しまれています。

<ピアノ：中田 百合子（なかた ゆりこ）>

大阪音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業後渡仏。フランス国立モンペリエ音楽院マスターコース修了。パリ・エコールノルマル音楽院にてピアノと室内楽の高等ディプロムを取得。大阪音楽大学卒業演奏会、大学新卒推薦演奏会「フレッシュコンサート」、第7回宝塚ベガ新人演奏会等に出演。

第6回 Grand prix national jeunes talents(仏)に於いて、審査員満場一致グランプリ獲得。同年、アマデウス音楽院に招聘され、モンロン・レ・バン市にてリサイタル開催。

第10回ロヴェーレ・ドーロ国際コンクール(伊)ピアノソリスト部門第4位。

第8回フランス音楽コンクール優秀賞受賞。

‘00年、手塚幸紀指揮オペラハウス管弦楽団、‘06年、金洪才指揮アルカディア室内管弦楽団と共演。

これまでに、ピアノを福井達子、中尾園子、永井譲、井澤利、P. ジグマノフスキー、B. カプランの各氏に、室内楽をM. デセニエ、Ch. ドビュッシーの各氏に師事。

関西を中心に、各地でリサイタルやジョイントコンサートに多数出演。また伴奏、室内楽の分野で活動する傍ら、後進の指導にもあたっている。

全日本演奏家協会、東京国際芸術協会、関西現代音楽交流協会、各会員。新響楽器ピアノ科講師。

作曲：朴 守賢 PARK Soo-Hyun (作曲家会員 出品)

石積みの歌

<コメント>

只管石を積む。やがて崩れることを恐れず、何を形成する事も目指さず、石を積む。それが生きることの、生きていることの、生きてきたことの証明のように。

<巴烏 (バーウー) について>

巴烏は、中国雲南省と周辺の東南アジアの民族に伝わるリード系横笛。音量・音域のレンジの狭さを補って余りある郷愁的音色が魅力である。

<作曲について>

ピアノは特定の音程関係を基本にして響きを積む。巴烏はピアノの音構造とは全く別にペンタトニックで歌を歌う。それぞれの生命がそれぞれを全うしながら調和することを目指した。

<作曲・巴烏：朴 守賢 (パク スヒョン) >

東アジアを中心に様々な分野で創作・演奏活動を展開している。

アジア作曲家連盟「アジア音楽祭 2003 in 東京」や ISCM「世界音楽の日々2009 スウェーデン大会」等で入選の他、韓国の済州国際管楽祭の招待作曲家として 2009 年度韓国社会人吹奏楽コンクール課題曲の委嘱を受ける。台湾では、国内最大の民族打楽器楽団「十鼓撃楽団」2010 年度ツアー一曲作曲、今年の高雄春天藝術節でも同楽団及び高雄市立国楽団と自作を共演。ACL-Korea 青年作曲賞優秀賞、大邱国際現代音楽祭最優秀賞を韓国で受賞の他、今年 4 月、日本クラリネット協会主催クラリネット作品コンクール 3 位受賞。関西を中心に映画・CM・ドラマ等のメディア音楽も制作している。

また、クラリネット・リコーダー・巴烏奏者としても全国の教育機関やイベント等で演奏、指揮活動も続けている。大阪音楽大学作曲専攻中退後、芸術祭等の国際交流サポーター・通訳(日韓中英)として世界各地で様々な音楽・芸能に出会ってきた事も、音楽や音楽への取り組み方に繋がっている。<http://www.parksoohyun.net>

<ピアノ：竹内 愛未 (たけうち まなみ) >

4 歳よりピアノを始める。大阪府立夕陽丘高等学校音楽科を経て、大阪音楽大学音楽学部器楽専攻卒業。第 1 回ミニヨンコンクール、ミニヨン賞。第 1 回岐阜国際音楽祭コンクール入選、岐阜市教育委員会賞受賞。2004 年イシハラホールにてデビューリサイタルを開催、以後活発な演奏活動を行っている。「水曜リサイタル」シリーズではドビュッシーを取り上げた。ソロのみならず、器楽声楽伴奏、現代作曲家の新作発表等、室内楽にも編成問わず積極的に取り組み、トランペット、トロンボーンとピアノのトリオ「51sheep」、サクソフォン奏者の弟、伊藤晃とのデュオ「La Musique Fraternel(フラテルネル)」「HANA Piano Quartet」としても活動。日本演奏連盟、PTNA 演奏会員。<http://takeuchimanami.blog84.fc2.com/>

作曲：北川 文雄 KITAGAWA Fumio 詩；野呂昶 (のろさかん)

「海中水族館」より シラウオ・マトダイ・イサキ

作曲：大澤 弘之 OSAWA Hiroyuki 詩；野呂昶 (のろさかん)

祈りのかたち・あのひ・ときめくレモン

野呂昶氏にお願いをして、今回の演奏曲について言葉をいただきました。

「このたび私の作詩による歌曲を6曲、片山賀子さんが歌ってくださることになった。どれもこの1・2年に生まれた作品である。詩人と作曲家が心を込めて創造した歌曲に清新ないのちを吹き込んで下さることを期待している。」

私が野呂昶氏の詩とはじめて出会ったのは、勤めていた支援学校で教材として使っていた音読詩集でした。子供たちと一緒に勉強していくなかで、詩を声に出して読むことでより楽しめると感じました。そして、その詩は作曲家の手により歌曲となりさらに強い印象を与えるものになるのだと思います。

詩集「海中水族館」からの3曲は北川文雄氏により作曲され、＜シラウオ＞の透きとおりに儂く美しい様子、＜マトダイ＞の深海に住み大小の目をもつ不思議さ、＜イサキ＞の若々しく躍動的な動きが表現されています。詩集「愛の詩集」からの＜祈りのかたち＞は大澤弘之氏にレクイエムとして作曲され、現今の物質や快楽中心の品性を失ったあり方に植物たちの祈りのかたちから反省をうながした作品です。＜あのひ＞は詩人の若き日の異性へのあこがれやときめき、せつない苦しかった思いが込められています。そして、＜ときめくレモン＞はパッと明るく誰もが幸せな気分になれるような曲です。（解説は、初演時のプログラムを参考させていただきました。）

<ソプラノ：片山 賀子 (かたやま のりこ) >

大阪教育大学卒業。尚美学園ディプロマコース修了。修了時に特別奨励賞を受賞。日本歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲の演奏にて多くのコンサートに出演。オペラでは「コシ・ファン・トゥッテ」のデスピーナ、「メリー・ウィドウ」のシルビアーヌなどのコミカルな役を演じ好評を得た。また、新作歌曲や音楽劇の初演でも活躍。その様子はFM・HIにて紹介された。関西現代音楽交流協会、EIの会会員。静岡県焼津市出身。

<ピアノ：石川 七津子 (いしかわ なつこ) >

大阪芸術大学大学院修了。1993年、堺市ピアノコンクール奨励賞受賞。2000年にはジョイントリサイタルを2009年にはソロリサイタルを開催。

これまでにピアノを、伊藤美子、藤井晶子、クラウディオ・ソアレス、故アゴナシュジョルジ、藤原由紀乃に、日本歌曲伴奏を塚田佳男に、音楽理論を小西奈雅子の各氏に師事。現在、アマリリスコーラス、河南高校同窓会たちばな会合唱団、シグナス混声合唱団専属ピアニスト。「なっちゃんのピアノ教室」主宰。

作曲：吉松 隆 YOSHIMATSU Takashi

デジタルバード組曲

吉松 隆 (1953-) 東京生まれの作曲家。慶應義塾大学工学部中退後ロックやジャズのグループに参加しながら独学で作曲を学び、1981 年に一連の「鳥シリーズ」の発端となったオーケストラ作品「朱鷺によせる哀歌」でデビュー。

作曲家のコメントを引用すると、「私の内なる空には、透明な鳥たちがいる。彼らは、その悲しげな瞳で人工の森の底でうごめいている人間たちを、静かに見下ろしている。そのせいもあって、鳥をテーマにした作品を書き続けている。それは、現代音楽という混沌の森から飛び立つ為の新しい翼を模索するためである。」

「デジタルバード組曲」は、機械仕掛けの鳥「デジタルバード」を主人公にした架空のバレエによる舞踏組曲。フルートとピアノの絡みが非常に効果的。

1. 鳥恐怖症 (変奏曲)
2. 夕暮れ鳥 (子守歌)
3. さえずり機械 (間奏曲)
4. 真昼の鳥 (円舞曲)
5. 鳥回路 (終幕のロンド)

シリアスよりはポップ、アナログよりはデジタルという発想で、現代音楽からの離脱を軽やかな鳥のステップになぞらえた作曲者の最初の作品。

<フルート：大升 良美 (おおます よしみ) >

愛知県立芸術大学音楽学部器楽科卒業。名古屋笛の会主催新人演奏会、コン・アニマ主催新人演奏会、定期演奏会に出演。M. ラリュエ、P. アランコ各氏のマスタークラス受講。

フルートを保坂真弓、榎田雅祥、長山慶子、寺本義明、伊藤公一の各氏に師事。06年、07年中部日本吹奏楽コンクール滋賀県大会に於いて審査員を務める。09年第二回 jfos フルートアンサンブルコンクールに於いて優秀賞受賞。自身が主催する音楽教室の他に、中学校、高等学校、音楽教室において後進の指導にもあたっている。トリオ”霧生”、ランコントルフルートカルテットメンバー。日本フルート協会会員、関西現代音楽交流協会役員。

<ピアノ：中田 百合子 (なかた ゆりこ) >

P5 参照

作曲：カプースチン 作曲 Nikolai Kapustin

「10のバガテル」より 1番、4番、5番、6番、10番

自身、並外れたテクニックをもつピアニストでもあるカプースチンは、クラシックはもとよりジャズピアニストとしても活躍しており、そうした背景をもつかれの作品からは独自のスタイルがうかがわれる。

1937年ウクライナに生まれた彼は、モスクワ音楽院にてピアノを学ぶ。そこでクラシック音楽の基礎を修めるとともに、その頃から興味をもったジャズを独学で学ぶ。そして卒業と同時に、コンポーザーピアニストとしての道を歩み始める。

クラシック音楽を基盤に、その上に、ブルースやラグタイム、ラテン音楽やロックのリズムなどの語法を取り入れていくことで、彼の作品は、まったく新しい音楽表現を提示している。

<ピアノ：夏目 有香（なつめ ゆか）>

大阪音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。

渡仏。パリ・エコール・ノルマル音楽院にてフランソワーズ・ティナ氏のもとで研鑽を積む。演奏ディプロムを取得。第16回 ABC オーディションに合格し、ABC フレッシュコンサートに出演。ザ・シンフォニーホールにて演奏し、好評を博す。

2008、2010年コンピューター音楽とのコラボレーションリサイタルを開催。

また、文化活動振興事業の助成を受けながら、教育機関、文化機関等での子供向け絵本コンサートを展開。他にも、リサイタルやコンクール、講習会等の伴奏を多く手がける。ピアノを山下泰夫、阿部裕之、青柳いづみこ、フランソワーズ・ティナの各氏に師事。

作曲：近藤 浩平 KONDO Kohei (作曲家会員 出品)

連弾の為の組曲「島」作品68

2001年に劇団神戸自由劇場が、広島の被曝者の戦後の生活を描いた堀田清美作の戯曲「島」を神戸アートヴィレッジセンターで上演した際に作曲した劇伴音楽を素材に作られた。2002年第11回国際ピアノデュオコンクール作曲部門にて入選。2005年のJFCアンデパンダンにおいても中井恒仁氏、武田美和子氏のデュオにより再演されている。中井デュオのライブ録音CD付きの楽譜がマザーアースから出版されている。

美しい瀬戸内の島の日常の暮らしの中へ忍び寄る原爆症発病への恐れに向き合いながら生きる戦後の被曝者の生活を題材としたこの作品は、作曲から既に10年が経った作品であるが、今、あらためて再演の機会をもっておきたいと考えた。

第1曲：前奏曲

第2曲：夜の海、春

第3曲：岬にて

第4曲：過ぎ行く時間

第5曲：祭りの日

第6曲：海の夕焼け

第7曲：終曲

<作曲：近藤 浩平 (こんどう こうへい) >

1965年兵庫県宝塚市生まれ。関西学院大学文学部美学科にて畑道也氏に音楽学を学ぶ。作曲は独学。2008年日本の音楽展・作曲賞入選。2010年ベルリン・ドイツ・オペラ<Klang der Welt Ostasien (世界の音・東アジア)>作曲コンクール第2位(室内楽)。2006年には『ピアノ協奏曲』が福村麻矢氏の独奏、パオロ・フェッラーラ氏指揮の関西フィルハーモニー管弦楽団によって初演された。スタヴァンゲル交響楽団(ノルウェー)の元首席ファゴット奏者で作曲家でもあるRobert Ronnes氏の委嘱で書かれ2011年4月に初演された『海辺の祈り～震災と原子炉の犠牲者への追悼』は、5月にビシュクーフの第5回室内楽・オルガン音楽祭にてDariusz Bator氏によりポーランド初演され、6月にはヴロツワフ歌劇場(ポーランド)にて開催される国際ワーグナー協会代表者会議においても演奏される。5月には同作品の左手ピアノ版が桑原怜子氏、智内威雄氏により、チェロ版が近藤浩志氏により演奏された。ヴァイオリン独奏版は、6月19日に大谷玲子氏の独奏による演奏が予定されている。

江森國友氏、森永かず子氏の詩による歌曲や、野村誠氏の委嘱による鍵盤ハーモニカの為の作品などもある。山や自然に関わる作品が多い。作品は日本作曲家協議会、マザーアース、PTNA、リコーダーJPから出版されている。日本現代音楽協会会員、日本作曲家協議会会員。<http://koheikondo.web.infoseek.co.jp/> ウェブサイトでは音源、楽譜を公開している。

<ピアノ：土井 緑（どい みどり）>

東京藝術大学附属音楽高校を経て、東京藝術大学卒業。英国王立音楽院大学院修了。日本演奏連盟賞受賞。大阪、東京にてリサイタル開催。その他、コンチェルト、室内楽、伴奏等幅広く活躍を続けている。その中でも、オール・ショパン・プログラムによる連続リサイタルを5回行い好評を博す。

安川加壽子、マリア・クルチオ、高良芳枝、藤井一興、クリストファー・エルトン、ハリーナ・チェルニー＝ステファンスカの諸氏に師事。

CD「Midori Doi plays F.Chopin」をリリース。

現在、大阪音楽大学准教授、大阪音楽大学付属音楽院講師、華頂女子高等学校音楽科講師。日本ピアノ教育連盟、神戸音楽家協会、日本ワーグナー協会、関西現代音楽交流協会各会員。

<ピアノ；多久 潤子（たく じゅんこ）>

大阪芸術大学演奏学科卒業。同大学専攻科修了。同大学卒業演奏会、東京読売新人演奏会、関西新人演奏会、兵庫県新人演奏会、第38回なにわ芸術祭新進音楽家競演会をはじめ、ソロや伴奏などで演奏会に出演。第12回堺ピアノ協会定期演奏会にてJ. S. バッハのピアノ協奏曲第一番、2002年関西フィルハーモニー管弦楽団とリストのピアノ協奏曲第一番を共演。ヴェニス国際アカデミー受講、同終了演奏会に出演。第三回夏期オルトーナ文化交流を受講。トスティ国際歌曲コンクール2007アジア予選大会にてトスティピアノ伴奏賞2位受賞。桑田富美子、大橋敏、津々見富紗子、クラウディオ・ソアレス、松村英臣の各氏に師事。

日本演奏連盟会員。

【会員募集】

関西現代音楽交流協会では現在作曲・演奏会員を募集しています。本会は現代音楽を志す人達の交流の環を広げ、その活動を活性化することにより音楽文化の普及と発展に寄与することを目的として 1986 年に設立されました。主な活動内容は、年 2 回の演奏会の開催と会員相互の交流です。会員の推薦があれば、作曲家・演奏家を問わず入会し、主催演奏会に出展することができます。ご関心のある方は、本演奏会終了後のレセプションにて会員までお問い合わせください。

【関西現代音楽交流協会ホームページ】開設

この度、関西現代音楽交流協会ではホームページを立ち上げました。交流協会主催の演奏会や会員の演奏会等の情報を発信してまいりますので、皆様よろしく願いいたします。

<http://kmma.web.fc2.com/>

関西現代音楽交流協会 事務局